



2020年4月14日

各 位

会 社 名 株式会社市進ホールディングス
 代 表 者 代表取締役社長 下屋 俊裕
 (コード番号 4645 東証 JASDAQ)
 問合せ先 執行役員統括本部副本部長 尾和 保弘
 電話 047 (335) 2840

通期連結業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

2019年4月15日に公表しました2020年2月期(2019年3月1日～2020年2月29日)の連結業績予想と本日発表の実績値に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

記

2020年2月期通期業績予想と実績値の差異(2019年3月1日～2020年2月29日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	16,601	308	119	134	13円57銭
今回修正予想(B)	16,463	308	35	11	1円09銭
増減額(B-A)	△137	0	△83	△122	-
増減率(%)	△0.8	+0.3	△70.1	△91.6	-
(ご参考)前期実績	16,410	405	219	309	31円25銭

差異の理由

2020年2月期の業績予想に関しまして、売上高につきましては、前期末比プラス191百万円で見込んでおりましたが、前期末比プラス53百万円にとどまったため、業績予想との差異はマイナス137百万円となりました。主な要因としましては、株式会社市進が運営する市進学院での夏期講習前早期入会者に対する夏期講習料金割引キャンペーンを追加で実施した点、株式会社茨進が茨城県で展開している茨進において、3月立ち上がりの在籍生徒数が厳しく、夏期講習を経て当初計画値に届いたものの予想よりも回復が遅れた点、介護事業を展開する株式会社時の生産物が運営するデイサービスNIWAの機能向上型トレーニング施設において、行政の制度変更の影響による利用者減少とその回復が当初目標値まで届かなかった点などが挙げられます。一方で経費につきましては、人員の適正配置による人件費の節減や、広告宣伝費や教材費などにおいても経費統制に努め当初予想数値を下回ることができたため営業利益の業績予想との差異は若干のプラスとなりました。経常利益におきましては、業績予想との差異がマイナス83百万円となりましたが、主な要因としましては、営業外損失として株式会社TOKYO GLOBAL GATEWAYの持分法投資損失が当初予想よりも増えた点があります。

以 上